

ETF 導入は日経 225 現先間の裁定取引を 活発にさせたか

高阪勇毅

〈要 旨〉

本論文は日本での **ETF (Exchange-Traded Funds)** 導入による市場の効率性への影響を日経 225 現先間の裁定関係の変化から実証している。本論文の特徴は、ティックデータを利用し、裁定機会の大きさを表す尺度として、無裁定条件からの①逸脱頻度と②逸脱の大きさ、裁定活動の活発さを計測する尺度として、③裁定取引回数、事後的な情報効率性を表す④逸脱時間、という 4 つの尺度から裁定関係の変化を捉えていることである。その結果、ETF 導入によって、逸脱の頻度と大きさ、そして、裁定取引回数の有意な増加が見つかった。一方、逸脱時間に明確な変化はなかった。この結果は、ETF 導入後、裁定機会が大きくなったものの、裁定活動も活発になったため、逸脱時間に変化はなかったと解釈できる。

© Japan Society of Monetary Economics 2010